

2019 年 1 月幹事会 企画幹事資料

議題 3. 2018 年度 第 41 年会報告（反省点）

< 年会前の準備 >

● 要旨集

- ✓ 展示ブースなど企業の広告に関する情報がなかった。

< 対応策 >

展示ブースの紹介を要旨に挿入する。ショーケースのスライドを入れても良い。

- ✓ 要旨集に背表紙がつけられないか？ 細い冊子でも動態学会 WS、SC などは背表紙がつけられている。閲覧の際に背表紙は役に立つのでは。

< 対応策 >

追加費用も含めて、41 年会の要旨は考慮する。

● 参加申込み

- ✓ 非会員お試し参加の対応

< 対応策 >

庶務/企画幹事で登録し、会計で入金確認後ステータス変更を行い、入金確認できた旨の連絡は都度行った。他に良い管理方法があれば、変更する。

- ✓ 参加申込者の申込内容の変更の対応

< 対応策 >

ほとんどの場合、連絡は庶務に来るため、今後も庶務で対応する。変更内容は適宜共有することが望ましい(庶務-会計間)。

- ✓ 振込確認後に企業代表者に届くメール内容が、入金済みを確認した旨がわかりにくい(これまでも同様の問い合わせがある)。

< 対応策 >

メール返信内容を変更した。今後も必要に応じて変更する(文章を作成し、ピングプラン社に修正依頼する)。

- ✓ チラシ配布のメール審議がギリギリだった(複数の組織から依頼があった)。

< 対応策 >

日本薬物動態学会など、毎年依頼が来る組織には、予め聴取することを検討する(談話会の予定を HP に掲載して頂いていることも考慮)。

● その他

会場住所について、過去の記載を確認せずに使用したため、正確ではなかった(「中区」

の記載が漏れていた)。この誤記載は年会案内を含め様々な箇所で見られていることを後日確認した。特に郵送物では不着が心配されたが、郵便番号(ホテル固有番号)に間違いはなかったため、問題はなかった。

＜対応策＞

以下に正しい住所を記載しますので、第 42 年会時には確実に修正してください。

〒430-7733 静岡県浜松中区板屋町 111-2 オークラアクトシティホテル浜松

＜年会当日＞

● 受付までの準備

- ✓ 朝食券の日付・団体名の記載が間違っている券が複数枚あり、参加者からの指摘で気が付いた。ホテル担当者に修正した券をもらい、限られた人数分であったが差し替えを行った。事務局から間違っている旨を参加者に案内した。

＜対応策＞

ホテル担当者からルームキー、朝食券がセットされた形で渡されたので、中身のチェックを事前に行わなかった。適宜確認をした方がよいかもしれない。

- ✓ 演題及び座長席がスクリーンに近かったため、スクリーンが確認できる場所まで、移動させた（当日確認し、ホテル担当者に対応頂いた）。

＜対応策＞

可能であれば、事前に会場と相談する。

- ✓ プロジェクターの入力切替が手動だった。

＜対応策＞

HDMI と D-sub15pin の切替をプロジェクター上部のボタン（INPUT SELECT）で切り替えた。次年度も事前に同タイプのプロジェクターとなるか、確認しておく。同タイプのプロジェクターの場合、演者にどちらの端子を使用するか、事前に確認しておくことと更にスムーズになると考えられる。

- ✓ 次演者席を指定する。たて看板を出し、周囲にわかるようにする（当日確認し、ホテル担当者に対応頂いた）。

＜対応策＞

可能であれば、事前に会場と相談する。

- ✓ 司会の控え席（企画幹事席）がなかったため、当日用意した（当日確認し、ホテル担当者に対応頂いた）。

＜対応策＞

可能であれば、事前に会場と相談し、司会台の近くに数席用意する。

- ✓ 質疑用マイクの 4 本中 2 本を前部でスタンド付きとし、2 本を後部で手持ちとして渡すこととしたが、参加者は前部のマイクに集中した(後半から後部 2 本もスタンドとした)。

＜対応策＞

参加者が見える場所にあれば十分と判断し、4 本ともスタンドで会場に設置しておく。

- ✓ ロビー（展示ブース、ドリンクサーブ場所）の円卓の椅子の数

＜対応策＞

往来を考慮し、展示ブース付近は少なめに設置した。会の間もさほど利用率は高くなく、机をドリンクの仮置きとする程度の利用が多かった。後半は座って話をされている場面も見受けられ、数は十分であったと思うが、休憩時間中は展示企業の方が利用していたりすることもあるので、その分を見積もって設置したい。

● 受付

- ✓ ご自分の PC で講演を行うと聞いていたが、実際には USB の利用を希望する演者もいた。

＜対応策＞

講演までに 2 回メールで確認しているので対応としては問題ないと考えている。USB から事務局 PC に発表資料を移して対応した。なお当日 USB の利用を希望していた演者 2 名には、年会前に資料を送って貰っておき、当日の手間を省くようにした。

- ✓ 当日、メール連絡で、急遽参加希望される方がいた。

＜対応策＞

年会 2 日目のみの参加であったので、参加費の徴収および昼食準備数の増加について対応した。領収書も予備を持参していたため問題なく対応できた。次年度も想定しておくといい。宿泊が増えたときのため、当日の空き部屋状況を予め把握しておくとしは対応に余裕が出るかもしれない。

- ✓ 一般・特別功労・演者の受け付けの表示を机に貼ると、見えにくくなるため、立て看板方式とした。

＜対応策＞

当日会場に相談し、立て看板とするフレームを貸与してもらった。

- ✓ 特別・功労会員の先生一名が禁煙ルームで手配されていたが、喫煙可能な部屋へ変更してもらった。

＜対応策＞

特別・功労会員の参加情報は詳細に(正確に)入力されていないこともあり、注意する。

- ✓ 体調不良のため韓国からの演者である Lee 先生の到着が遅れた。

＜対応策＞

杉山先生の秘書の方が新幹線乗車までサポートしてもらい、無事ショーケースまでには到着された。なお Lee 先生は、会期中には体調が回復せず、延泊を希望されたため、ホテル側に確認を取り、同じ部屋に延泊いただいた。延泊の費用については通常は本人負担とするところだが、海外招聘の演者であり、体調不良というアクシデントである状況

等加味して、談話会にて負担した。

● ドリンクサーブ・コーヒーブレイク

- ✓ ドリンク受取に時間がかからない様に、サーブ場所を分散させたが、その影響で手前のサーブ場所から受け取る参加者が多くなり奥のサーブ場所には参加者が集まらず、結果として最も奥に設置された喫煙ブース近くの展示企業ブースに参加者が集まらなかった。
＜対応策＞

(2 回目以降のドリンクサーブからは)サーブ場所をブース近くの奥側に設置し、参加者が程よくブース近くに分散するようにした。ブースの出展数にもよるが、参加者の流れを想定してみる。また、問題あれば当日でも場所変更可能なので、会場担当者に相談する。
→ドリンクサーブの位置については、様子を見て適宜変更が必要かもしれない。
(変更後の配置について、「近すぎてブースがサーブの邪魔になっているのでは？」というブース出展者の意見もあり)

- ✓ 昼食後にもドリンクサーブした。

＜対応策＞

その予定としていたが、会場に伝わっていなかった(2 日目午前中に確認したため問題なし)。次回は事前に確認しておく。昼食会場ではコーヒーは給仕されない。

- ✓ コーヒーブレイクの時間として 20 分を設定していたが、年会の進行が遅延したため、15 分に短縮された。

＜対応策＞

コーヒーブレイクは企業ブースの見学時間として貴重であるため、25 分で設定しておいて、年会在遅延して短縮しても 20 分は確保できるようにする。

● 「ショーケース」

- ✓ 例年はスクリーンの前に椅子を並べて演者に座ってもらっていたが、今年は最前列の席に座ってもらった。

＜対応策＞

最前列の席に座ってもらった方が、他の演者の発表が見やすいので、来年度以降もその形で良いかもしれない。

- ✓ 一名資料が PDF の方が居て、本番であせってしまった。

＜対応策＞

できる限り PPT でもらう。試写時に確認し認識していたが、そのような場合もあることを十分想定し、記憶しておく。

- ✓ 資料差し替えにより、演者が使用される資料と企画幹事が既に準備していた資料が異なる場合があった。

＜対応策＞

演者と前もって調整し、差し替えがある場合でも演者とコミュニケーションを取り適切に対応する。

- 意見交換会（会場：3 階チェルシー）

- ✓ 杉山先生が会長挨拶時に担当幹事を紹介して下さったとき、対象の幹事が見当たらなかった。

＜対応策＞

この様な場合の対応のため、乾杯までは主担当幹事は司会者席近くに控えておく。（その後はずっと居る必要はありませんが、司会担当(庶務)としては、近くに数名居ていただくと会全体で気になる部分の対応をお願いできてうれしいですが）

- ✓ 意見交換会の時間が 1 時間 50 分と十分に歓談できる時間を設定できた。一昨年は時間が短いと感じたが、今年はゆっくり過ごせた。今年くらいの長さがちょうど良い。
- ✓ 挨拶を含めると食事の開始が 20 時近くと遅くなっていた。

＜対応策＞

1 日目を 16 時スタートとすることで、全体を 30 分繰り上げてはどうか。

- 二次会（会場：30 階パール（定員 64 名））

- ✓ 8 割程度の着席率の参加人数であった(去年よりは少ない印象)

＜対応策＞

意見交換会に十分な時間を割いたための結果とも考えられるが、妥当な範囲であると考ええる。

- ✓ 終了が 23 時と遅く、翌日の幹事会は 7 時、セッション開始は 8 時半と早いので 2 日目のセッションに向けて休息する時間が少ないと感じた。
- ✓ 若手はほとんど参加していなかった。最近では会社の飲み会でも 2 次会まで付き合う若者は少ないのが原因かもしれない。

＜対応策＞

意見交換会と同様に、1 日目を 16 時スタートとすることで、全体を 30 分繰り上げることで 22 時半に終了するスケジュールとする。あるいはもう少し意見交換会の時間を長くして、2 次会を意見交換会に集約してはどうか。

- 幹事会時の朝

- ✓ 幹事会に参加される先生一名が、間違って 4 階へ行かれ、動いていないエスカレータで下られたそうです。

＜対応策＞

場所について念押しでお伝えしておく。幹事会の開始時間ごろにはエスカレータを早めに動かしてもらうことも考慮。

- 展示ブース

- ✓ プレゼンに使う PC（自前 PC か、事務局 PC か）について、事前に聴取した内容と異な

った。

＜対応策＞

対応自体に特に問題はないが、進行の円滑化のため、可能であれば事務局 PC に統一したほうがよいと思われる。

- ✓ 展示終了後の各社荷物の返送のため、2 日目昼前に各社に確認のうえ着払伝票（ヤマト宅急便）をホテルに用意してもらった。自社で用意している会社もあった。すぐに用意してもらえるが、事前に各社に伝票の種類（着払 or 発払）と必要枚数を確認しておいた方がスムーズかもしれない。

● 講演及び全体について

- ✓ 年会 2 日目の講演は午前のプログラムで 15 分押し、12:10 で終了する予定が 12:25 終了となった。昼食時間を 45 分間に短縮し、13:10 開始としたが、午後も 10-15 分押し、全体で 17:30 に終了する予定が 17:50 過ぎに終了した。

＜対応策＞

演者には質問 5 分程度を含む講演時間とお伝えしていたが、持ち時間を全て講演に使われた演者もいらした（特にアカデミアの先生）。講演時間と質問時間をそれぞれ規定してお伝えする方がよい。最後の事務連絡は本来 5 分程度で十分なところを、遅延が生じた際のバッファとして 15 分取っていたが、遅延時間の軽減には役立った。来年以降も同様の手段を講じた方がよいと思われる。昼食では、皆さんが黙々と食事をしていたので、動態学会など別の学会の紹介をランチョン形式で昼食時に実施すると講演時間をより確保できると思われる。

- ✓ 会場は 18 時過ぎには空けて欲しいとホテル側に当日言われた。

＜対応策＞

タイムスケジュールに沿った進行を前提とするが、遅延したときに備え、完全退去時間をホテルに確認しておいた方がよい。

- ✓ 会場映写用 PC の管理は庶務幹事以外でしたほうがよいかもしれない。

＜対応策＞

当日庶務幹事は走り回っていることが多く、演者切替時間にその場に居られないこともありうる(会計幹事も受付対応が 2 日間通して発生するため、ほぼ持ち場は固定で動けない)。映写用 PC は各社の規定により持ち出し可・不可があるため、担当幹事を一律に決めることは出来ないが、常に会場内での進行状況及び事前提示された発表資料を把握している企画幹事もしくは、当日終日対応可能となりえるセミナー幹事、会計監査で映写用 PC を管理することを検討する。

● 年会の会場について

- ✓ オークラクトシティホテル浜松の宿泊費が高額で各社の宿泊規定における宿泊費の上限を超えたため、外部の宿泊施設を利用する参加者がいた。

＜対応策＞

今後も、各社の宿泊規定は厳しくなることも予想されるので、将来的には少し安価な会場を検討しても良い。

● 演者・座長から頂いたご意見

- ✓ 終了時間が大幅にずれた点が気になりました。
- ✓ ブースは余り盛況な感じではないように思いました。学会やセッションを主宰したことのある立場としての意見ですが、休憩時間も短く、協賛会社とのインタラクションについて少し気になりました。とは言え、初日夜のピッチの時間や、懇親会の機会もあるので、会社側から問題が出ていないなら良いかと思います。
- ✓ 今回素晴らしい宿泊のお部屋を取って頂いたようですが、一般参加者の方々も同じ仕様なのでしょうか？あまりに素晴らしく、どうされているのか気になりました。

<対応策>

上述。

議題 3.【別紙】

2018 年 薬物動態談話会 第 41 年会 展示ブース
～アンケート結果集計～

年会終了後、出展企業にアンケートを行った。

今年度出展企業：株式会社富士通九州システムズ、バイオタージ・ジャパン株式会社、株式会
社フェニックスバイオ、神戸天然物化学株式会社(非会員)、
ブルカージャパン株式会社(非会員)・・・5 社

実施方法：メール

集計方法：個別回答は無記名で取り扱う

2018 年薬物動態談話会 庶務幹事
島本 建祐

【アンケート集計結果】・・・全出展企業より回答頂いた

回答要約

- ・出展企業には概ね満足頂いたと思われる。
- ・お昼休みを除き、休憩時間は基本的に変更しなかったが、時間が押している印象からか、
展示企業からは少し不満を感じていることを感じた。
- ・意見交換会への参加は好評であったが、参加費を支払って参加している企業にはメリット
にはならず、プレゼン後のコーヒープレイクでの交流を望む声もある。
- ・出展の可否は年会テーマに依存する。
- ・リピートを期待し、出展していただいた企業には、募集決定次第、個別に連絡することを
検討する(今年度実施)。特に非会員企業には通常ルートでは連絡行かないので、対応を検
討する。なお、非会員企業が 2 回目のブース展示を希望する場合には会員になる必要があ
るので注意が必要です。

以下、個別回答

(1) 展示ブース出展における全体的評価（5 段階）

①良い 5 社、②まあまあ良い ③普通 ④いまいち ⑤悪い
コメント；

A 社：出展自体初めてでしたが、色々な方がご興味を持っていただけ、ブースにお立ち寄りいた
だけだったので良かったです。

(2) 展示ブースの設置場所について

①良い 4 社、②まあまあ 1 社、③悪い
コメント（具体的な位置など）；

- A 社：コーヒーなどのサーブをするのが真横でしたのでサーブしにくそうでしたので申し訳なかったです。
- B 社：当社から 3 名が参加していましたが、ブースの間隔を広く設けていただきましたので、圧迫感を全く感じませんでした。出展社数に応じて間隔は変更されるかと存じますが、可能でしたら来年度も同様の間隔を設けていただけると幸いです。
- C 社：企業ブースを通る位置に珈琲スペースを設けて頂き、ご配慮有り難かったです。
- E 社：ドリンクサービスへ向かう導線上に出展スペースを設定頂けたので、多くの方にブースをご覧いただけたと思います。

(3) 今後、展示ブースを募集した際に出展の有無について（参考まで）

①希望 2 社、②未定 3 社、③希望なし

コメント；

- C 社：学会のテーマによって検討したいと存じます。
- E 社：会社には次回の出展に向け、前向きに報告させていただきます。

(4) 意見交換会への参加について

①良い 5 社、②まあまあ ③悪い

コメント；

- A 社：多くの方と名刺交換や意見交換ができましたので大変良い時間を過ごさせていただきました。
- C 社：参加者の皆さまと気軽にお話しできるよい機会と思います。(料理も美味しく頂きました)
- E 社：先生方ともご挨拶・お話ししやすく良い機会でありました。

(5) 展示ブース紹介のプレゼンについて何かご意見があれば聞かせてください（時間等）。

- A 社：2 分のプレゼンテーションでしたが、逆に短時間の方が興味を持っていただけたかと思うので良かったと思います。
- B 社：来年度も、プレゼンの機会を頂けると幸いです。時間は「2 分」で丁度良かったです。
- C 社：ちょうどよい時間かと思います。
- D 社：今回初めての機会をいただき、ありがとうございました。プレゼン時間としては 2 分間で十分と思いました。できれば、そのプレゼンテーションの後に 15-20 分ほどブースに立ち寄って頂ける時間があるとより良かったように思います。とはいえ、やはり企業プレゼンは 1 日目の意見交換会の前が望ましく、ウェルカムドリンクの直前を考えたとして例えば今年では中村祐輔先生の直後にプレゼンするのもあり得ないように思い、難しいところです。
- E 社：プレゼン直後の意見交換会でしたので、プレゼン内容をきっかけにお問い合わせ、質問を頂く事が出来、会話のきっかけも増え良かったと思います。

(6) 展示ブースの要望・改善点・その他、展示ブース以外でもご自由にお書き下さい。

(例) 出展料金、準備情報、出展数、コーヒープレイク時間など。

- A 社：全体的に時間が押してしまっていて、展示ブースにお越しいただく時間が少し削られてしまったのが少々残念でした。
- B 社：住所改訂があったのだと思いますが、ブース展示マニュアル等に記載されているホテルの住所に不足がある様です(中区が必要かと思います)。備品を発送する際、ヤマト運輸さんから昨年指摘がありましたが、お伝えできておりませんでしたので、今回お伝えさせていただきます。細かい点で申し訳ありません。
住所：静岡県浜松市中区板屋町 111-2
- C 社：強いてあげるなら、参加者とお話する時間が少ないように感じます。本会の趣旨も理解しているので仕方ないですが、休憩時間をもう少し増やしていただけると有り難く存じます。
- D 社：意見交換会でもお伝えさせていただきましたが、バイオアナリシス的なテーマが含まれていると、弊社としては有り難いです。機会がありましたらご検討ください。今後とも引き続き宜しくお願いいたします。
- E 社：この度は、お世話になりました。

以上

議題 4. 2019 年度 第 42 年会の準備状況

- 日程：

開催日：2019 年 11 月 14 日（木）～15 日（金）

場所：アクトシティ浜松（浜松）

- 事務局・担当常任幹事：

長谷川・大西企画幹事（塩野義製薬株式会社）

久米常任幹事（田辺三菱製薬），千葉常任幹事（ブレイゾン・セラピューティクス）

2019 年度（第 42 年会）のコンセプト（メインテーマ）、シンポジウムテーマ、組織委員会メンバー案を検討すべく、企画担当常任幹事、企画幹事及び杉山会長での打合せをメールベースで行った。

- 検討内容：

中分子、高分子及び細胞製剤など創薬のモダリティが変化する中でも、低分子創薬を地道に行っている製薬企業はまだ多いので、低分子のポテンシャルを掘り起こしたいとの思いから企画幹事から低分子創薬をメインテーマとして提案した。メインテーマ案は以下の通り。

- ① 低分子創薬の新展開
- ② 新時代の低分子創薬
- ③ 低分子創薬の新規アプローチ
- ④ 低分子への回帰から生み出される新たな創薬
- ⑤ 低分子創薬における薬物動態研究者の新たな貢献

各シンポジウムテーマとして、下記 4 テーマを提起した。

- ① 核酸を標的とした低分子創薬
- ② 低分子創薬の PKPD 解析力を向上させる最新イメージング質量分析技術
- ③ 薬物動態変動因子を標的とした低分子創薬
- ④ 低分子創薬の戦略的動態最適化

参考

	シンポジウムテーマ	
第 37 年会（2014）	ファーマコゲノミクス	PK/PD Modeling & Simulation
第 38 年会（2015）	バイオマーカー(創薬)	モデル動物
第 39 年会（2016）	DDS 技術, New modality	バイオマーカー（毒性）
第 40 年会（2017）	新規ツール（肝細胞, AI）	製剤
第 41 年会（2018）	新規ツール（AI, in silico）	核酸医薬品開発

以下に、それぞれのテーマに対する趣旨、組織委員候補及び想定演題を示した。

年会テーマ案①：核酸を標的とした低分子創薬

＜趣旨＞

核酸創薬が盛んに研究される中、低分子により核酸を標的とする低分子核酸創薬が注目されているため、新たな低分子創薬の戦略立案とその中での薬物動態研究者の役割を議論するために、核酸を主題としたセッションを企画したい。

＜組織委員候補者＞

東京理科大学：西川 元也先生

国立医薬品食品衛生研究所：斎藤 嘉朗先生

その他の候補者は検討中

＜組織委員選定理由＞

西川 元也先生：核酸医薬品の薬物動態に精通した先生で、薬物動態談話会の特別会員に就任。
薬物動態談話会、第 41 年会にて基調講演を実施。

斎藤 嘉朗先生：特別会員。久米常任幹事の推薦。

＜想定演題＞

- 1) 近藤 次郎先生（上智大学理工学部）：日経バイオテク プロフェッショナルセミナー「低分子薬で核酸を標的に」にて、「立体構造情報に基づく RNA ターゲット創薬 -その方法・実例・可能性-」とのタイトルで講演された。核酸を標的とした低分子創薬のイントロダクション的な内容を分かりやすく説明されており、久米先生からの推薦があった。
- 2) 井上 貴雄先生（国衛研）：上記の日経バイオテク プロフェッショナルセミナーにて、核酸医薬（あるいは核酸をターゲットとしたモダリティ）全般の安全性評価についての発言をされており、動態部門にも関わる内容なので、久米先生からの推薦があった。

年会テーマ②案：低分子創薬の PKPD 解析力を向上させる最新イメージング質量分析技術

＜趣旨＞

低分子創薬を成功裏に導くためには、PKPD の解析力の向上が必須であり、そのために特に組織内薬物分布・濃度を明らかに出来るイメージング質量分析技術が有効として活発に研究が行われている。また、41 年会ではブルカー社がお試しで展示をさせていただいており、意見交換会やアンケートでもバイオアナリシスのテーマを望まれている。動態談話会への分析機器メーカーの参加は少なく、島津やウォーターズの参加も期待できる。そんな背景もあり、42 年会では分析技術をシンポジウムのテーマに挙げたい。

＜組織委員候補者＞

大阪大学：新聞 秀一先生

塩野義製薬：田中 由香里先生

その他の候補者は検討中

＜組織委員選定理由＞

新聞 秀一先生：2015 年薬物動態ショートコースで講演。医学・薬学における最先端質量分析技術ーベッドサイド TDM、術中診断、イメージング質量分析ー。革新的

薬物動態解析 (new imaging PK/PD analysis) の応用研究を製薬協加盟会社と実施。「ヒト 3 次元生体組織モデルにおける高解像度薬物動態可視化システムの開発」のシンポジウム開催。

田中 由香里先生：2013 年日本質量分析学会 ベストプレゼンテーション賞、2015 年薬物動態ショートコース、2016 年日本質量分析学会 論文賞、2017 年日本薬物動態学会シンポジウムで講演。

<想定演題>

- 1) 伊藤 利将 先生：積水メディカル→MALDI-Imaging quantitation of neurotransmitters in rat brain using “Triple Spray” method、アミン類が多い神経伝達物質を組織切片上で誘導体化して定量的に測定する手法の紹介、2018 年薬物動態学会ベストポスター賞受賞

年会テーマ③案：薬物動態変動因子を標的とした低分子創薬

<趣旨>

低分子創薬の標的は枯渇しつつあり、新たな創薬標的の探索が急務となっている。薬物動態変動因子であるトランスポーターや代謝酵素は、生理機能を担っており病態の要因として、創薬標的になりうる。トランスポーターや代謝酵素の分子実態が解明されつつある今、薬物動態研究者が創薬標的の探索で活躍する可能性を議論するために、薬物動態変動因子と病態との関連性に関する最新の知見を紹介するセッションを企画したい。

<組織委員候補者>

金沢大学：加藤 将夫先生

千葉大学：小林 カオル先生

金沢大学：中島 美紀先生

その他の候補者は検討中

<組織委員選定理由>

加藤 将夫先生：「トランスポータと創薬、構造と病態からのアプローチ」と題したセミナーにて、「メタボロミクスからとらえる OCTN1/SLC22A4 の機能と病態治療への応用」との演題で講演。

小林 カオル先生：異物代謝酵素 CYP3A の生理機能に関する講演 (薬物動態学会)

中島 美紀先生：代謝酵素の生理機能の解明と創薬展開のオーガナイザー (薬物動態学会)

<想定演題>

- 1) 金井 好克先生 (大阪大学大学院医系研究科)：アミノ酸トランスポーターLAT1 を標的とした創薬、特別講演の候補
- 2) 今村 雅一先生 (アステラス製薬株式会社)：SGLT2 選択的阻害剤の創薬研究、～新規経口血糖降下薬イプラグリフロジン (スーグラ®) の創製～で日本薬学会 医薬化学部会賞 受賞

年会テーマ④案：④ 低分子創薬の戦略的動態最適化

<趣旨>

低分子創薬における構造修飾の選択肢が狭まっている中、限られた合成化合物から価値の高い新薬を拾い上げる戦略が重要となっている。その中で、高い薬効と安全性を獲得するための戦略的な体内動態制御法は新薬創出のキーファクターとなっている。そこで、価値の高い新薬を効率的に選出する上で薬物動態研究者が果たす役割を議論するために、戦略的な薬物動態の最適化により有望化合物及び新薬の創出に至った成功事例を紹介するセッションを企画した。

<組織委員候補者>

安東 治様：第一三共株式会社 薬物動態研究所

平林 英樹様：武田薬品工業株式会社、薬物動態研究所

その他の候補者は検討中

<組織委員選定理由>

薬物動態研究所マネージャー

<想定演題>

- 1) 抗インフルエンザウィルス剤ゾフルーザ開発における経口吸収改善（塩野義製薬、佐藤健司先生）
- 2) HER2 抗体と新規トポイソメラーゼ 1 阻害薬 DXd の抗体薬物複合体 DS-8201 の開発における肺がん移行性の最適化（第一三共株式会社：我妻 利紀先生）
- 3) HER2 陽性乳癌用の抗体薬物複合体（カドサイラ）における乳癌移行性の最適化（中外製薬株式会社：演者未定）

● 本日の討議内容：

1. 年会メインテーマの仮決め
2. 4 つのシンポジウム案の是非と絞り込み
 - ✓ ひとつのシンポジウムで 4-5 演題（ふたつのシンポで 8-10 演題が限度）
 - ✓ ミニシンポ（2 演題程度）を加えることは可能.
 - ✓ 企画幹事案：②をミニシンポとし、③と④を合体させてはどうか.
3. 組織委員候補者の推薦、選定

議題 5. 2019 年度 例会の準備状況

1) 2019 年 4 月例会

開催日：2019 年 4 月 19 日（金） 13:30～16:30

場所：千里ライフサイエンスセンター（大阪）

講 演	演題・所属・氏名	備 考
一般講演	1) 13:30～14:15	
	「自社開発化合物の薬物動態研究事例について（仮）」	済 演題
	日本新薬株式会社、薬剤研究部	済 演者
	山田 哲寛 先生	済 ご略歴
	2) 14:15～15:00	
	「ラットおよびマウス腎スライスを用いた再吸収トランスポー	済 演題
	ターの機能評価（仮）」	済 演者
	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、薬物動態安全性研究	済 ご略歴
特別講演	部	
	齋藤 麻美 先生	
	15:15～16:15	
	「細胞製剤の DDS（仮）」	未 演題
	京都大学大学院薬学研究科 薬品動態制御学分野 講師	済 演者
	樋口 ゆり子 先生	済 ご略歴
司 会	塩野義	

2) 2019 年 9 月例会

開催日：2019 年 9 月 27 日（金） 13:30～16:30

場所：日本薬学会館（東京）

一般講演：

会員名簿はネモト・サイエンス、バイエル薬品（浜松ホトニクス、MSD）の順。2 月中に打診予定。

特別講演：

演者未定。一般講演の内容と関連した先生を選定する。2～3 月に候補の先生を検討し、4 月幹事会で決定後に打診予定。

企画幹事からの提案：例会での演題要旨の作成と配布

1 月、4 月、9 月の例会では、演題要旨が聴講者に配布されないが、これは演者への負担を考慮したものと思われます。しかしながら、通常、学会出張で出席している聴講者は出張報告義務があり、口頭で拝聴した内容を正確に報告するのは少し苦労があるものと推測します。それぞれの演者は、会社等に外部発表許可を得るために簡単な要旨は必ず作成していると思うので、

それくらいの 1 枚ものを事前に提出してもらい、当日の参加者に配布してはどうかと思います
(3 枚のプリントを受け付けで手渡しする)。9 月例会からの提案。